MH-DEVICE

MH-Beta2

Foot Switch ／ フットペダル



このたびは MH-Beta2 をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用の前に「安全上の注意」を必ずお読みください。

本書では、MH-Beta2 の各部の名称と仕様、設定ツールの使い方、
MH-Beta2 だけの機能を説明します。

2026年9月版 ／ 設定ツール ver.22 対応

MH-Device
https://mh-device.com/

安全上の注意

必ずお読みいただき、記載の内容を守ってご使用ください

お客様自身や他者への危害および財産の損害を防止するための内容です。必ずご理解のうえ、遵守いただけますようお願いいたします。

警 告

・本製品の上に立ったり、乗ったりしないでください。転倒・けが・本体の破損の原因となります。
・本製品を使用する場合、ご使用PCメーカーが指示する警告・注意表示を遵守ください。
・機器の分解および改造は絶対にしないでください。火災、感電および機器故障の原因となります。
・異音、異臭や煙が発生しましたら速やかに接続コードを抜いてください。
・機器を濡らしたり、水気のある場所で使用しないでください。火災、感電および機器故障の原因となります。
・機器の内部に液体及び異物が混入した場合は直ちに使用を中止し、販売店に調査を依頼ください。
・機器を45℃以上の環境で使用しないでください。機器変形等、故障の原因となります。

注 意

・USB ケーブルは、足やいすのキャスターで踏まれない経路に配線してください。断線・つまずきの原因となります。
・滑りやすい床でお使いになるときは、マットなどを敷いて本体が滑らないようにしてください。
・裸足での使用は避けてください。足を痛めるおそれがあります。
・長時間続けて操作すると足に負担がかかります。適度に休憩をとってください。
・本機器の分解、改造、加工、塗装はしないでください。
・本製品を濡れた手で触らないで下さい。
・お手入れの際はベンジンやシンナーなどの有機溶剤や薬品は使用しないでください。
・乳幼児の口に入る小さな部品がありますので、乳幼児の手の届かない場所で使用、保管をお願いいたします。
・本機器を直射日光のあたる場所、高温、多湿となる場所、埃の多い場所、強い磁場、電波、静電気の発生する場所での使用、保管はしないでください。
・機器に強い衝撃や振動、無理な力を加えたり、異物を差し込んだりしないでください。
・本製品を不安定な場所に設置しないでください。
・本製品の故障またはその使用によって生じた直接、間接の被害について、販売元は一切の責任を負わないものとします。
・本書の内容および本機器は改良その他により予告なく変更することがございます。

その他

・故障に関しては該当箇所実費で修理いたします。（送料ご負担ください。）
・初期不良以外の返品はできかねますので、ご了承ください。
・お問い合わせは下記メールアドレス宛にお願い致します。技術情報の開示は実施しておりません。
・ MH-Device お問い合わせ ： mh.device.info@gmail.com

製品概要と同梱品

MH-Beta2 は、足で操作するフットペダルです。9個のスイッチを3列×3段の階段状に配置しており、段で列を選べるため、足を大きく動かさずに踏み分けられます。

両手はキーボードとマウスに置いたまま、操作をもう一系統だけ増やせます。専用の設定ツールで、キーボードのキー・マウスのボタン・ゲームパッドのボタン・マクロを9個のスイッチに割り当てられます。



項目	内容
搭載スイッチ	フットスイッチ 9個（3列×3段の階段状）
キースイッチ	黒軸 × 9。足で操作するため押下力の高い軸を採用しています ホットスワップに対応していますが、交換はお客様の自己責任でお願いします
本体サイズ	182mm × 115mm × 40mm
質量	約 245g
筐体色	ブラックのみ
PC 接続	付属の USB ケーブルで接続
同梱品	USB Type-C ケーブル

▶ **本製品は両足での操作を想定して設計しています。**
スイッチの間隔を広めにとり、段差を付けることで、踏み間違いを起こりにくくしています。

各部の名称

設定ツールに表示される名前と、本体の位置の対応です



スイッチの名前（設定ツールでは 1 ～ 9 と表示されます）

名前	場所
1 / 2 / 3	いちばん奥の段（3個）
4 / 5 / 6	中央の段（3個）
7 / 8 / 9	手前の段（3個）
LED	本体上面。いまのチャンネルを色で示します
USB Type-C ポート	本体背面。付属ケーブルで PC と接続します

▶ 本製品は左右対称です。ほかの MH-Device 製品にある「右手用 / 左手用」の区別はありません。
設定ツールの画面には「MH-BETA2-(STD)」と表示されますが、向きの違いはありません。

接続する

はじめて使うとき

・付属の USB Type-C ケーブルで、本体と PC を接続します。
・USB ドライバのインストールは不要です。接続するとそのまま使えます。
・工場出荷時は、スイッチ 1 ～ 9 にそれぞれ数字の 1 ～ 9 が割り当てられています。
・割り当てを変えたいときは設定ツールを使います。
・床に置き、足の届く位置に合わせてお使いください。

接続先	使えるもの	備考
Windows PC	すべての機能	推奨環境です。設定ツールは Windows 版をお使いください
macOS	本体の機能	設定ツールは β 版です
Linux	本体の機能	設定ツールはありません。設定は Windows で行ってください

▶ 本体は USB ハブを介さず、PC 本体の USB ポートに直接接続することをおすすめします。
設定は本体の中に保存されるので、一度設定すれば別の PC に挿しても同じように動きます。

⚠ USB ケーブルは、足やいすのキャスターで踏まれない経路に配線してください。

設定画面の見方

設定ツールで MH-Beta2 を開いたときの画面です



MH-Beta2 の設定画面

場所	内容
左上	本機の外観図。どのスイッチがどの名前かを確認できます。クリックで拡大表示
中央上	チャンネルの切り替えと LED色
右上	キーボードレイアウト、その他設定
中央	割り当てボタン。「名前 ： 割り当てたキー」の形で 9 個が並びます
左下	プリセットファイルの保存・読み込み
左下（デバイスメニュー）	ファームウェア更新 / マクロ編集 / 全キー消去

▶ 本機には操作モードとアナログスティックがないため、「モード」の選択と「スティック調整」は表示されません。

MH-Beta2 仕様一覧

本書で「製品によって異なります」と書かれている項目の、MH-Beta2 の値です

項目	MH-Beta2 の値
割り当てできるスイッチ数	9（3列×3段の階段状）
チャンネル数	4（Ch1 ～ Ch4）
操作モード	なし
アナログスティック	なし
トラックボール	なし
ホイール	なし
LED	1灯。チャンネルごとに R / G / B を 0 ～ 127 で設定
マクロ登録数	60（Macro.1 ～ Macro.60）
マクロ1つあたりの命令数	15 まで
マクロ動作モード	Momentary / Alternate / DualTrigger / TapHold / DoubleTap の5種
ゲームパッド	32 ボタン ＋ ハットスイッチ 2 組
キーボードレイアウト	qwerty / qwerty-jis / azerty / qwertz
その他設定	あり（中立オーバーシュートガードは表示されません）
AutoChannel	対応
向きの区別	なし（左右対称）
USB ドライバ	不要
ファームウェア更新方式	設定ツールから自動更新
対応OS	Windows / macOS / Linux（設定ツールは Windows 版。macOS 版は β 版）

設定ツールを準備する

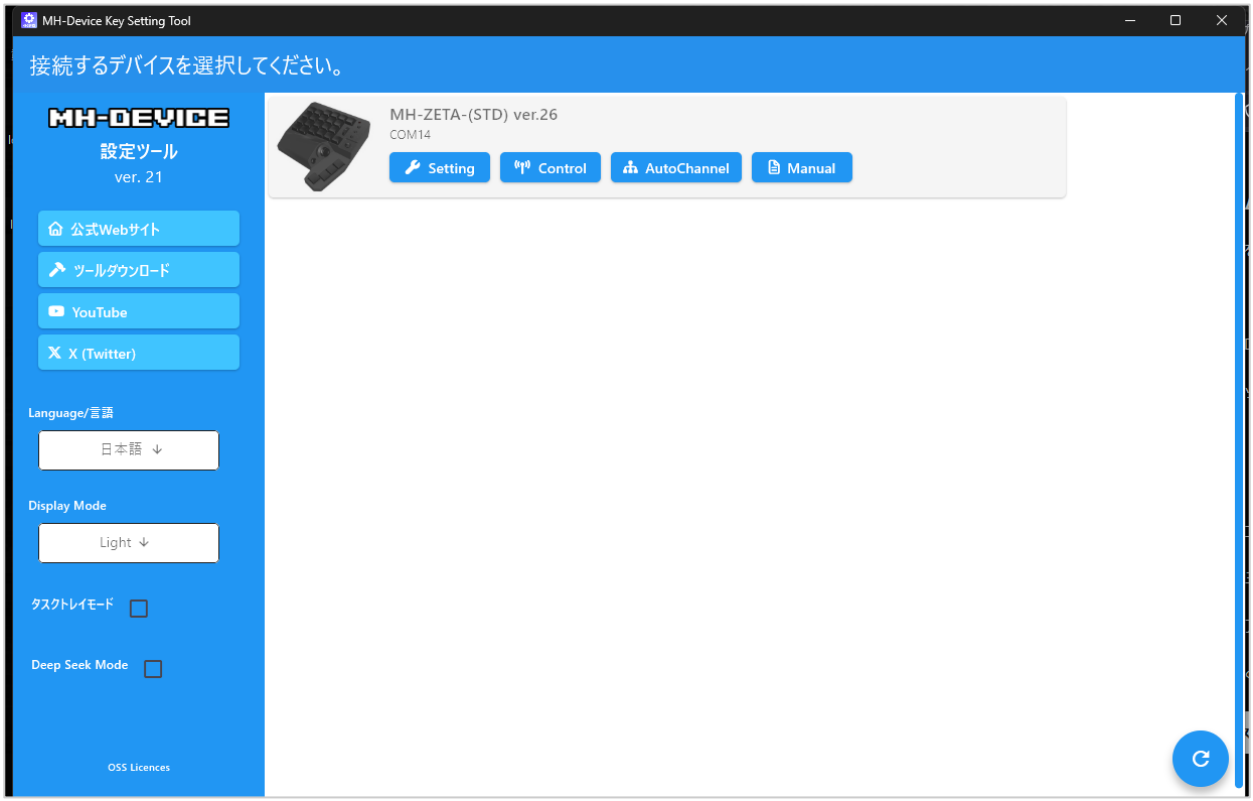
項目	内容
対応OS	Windows 10 / Windows 11（64bit）
macOS	β版です。動作は保証していません
必要なもの	本体と PC を接続する USB ケーブル（製品に付属）
入手先	https://mh-device.com/ → ツールダウンロード

導入の手順

・ダウンロードした zip を展開し、mhkeysetting.exe を実行します。インストールは不要です。
・設定内容は本体の内蔵メモリに書き込まれます。設定後は設定ツールを起動していなくても、
ほかの PC やゲーム機に挿しただけで同じ設定で動きます。
・本体を認識しないときは、USB ドライバのインストールが必要な製品があります。
お使いの製品のページに案内がある場合は、そちらの手順に従ってください。

▶ **AutoChannel（起動中のアプリに合わせてチャンネルを自動で切り替える機能）を使うときは、**
設定ツールを起動したままにしておく必要があります。
起動画面の「タスクトレイモード」を ON にすると常駐します（Windows のみ）。

起動画面の見方



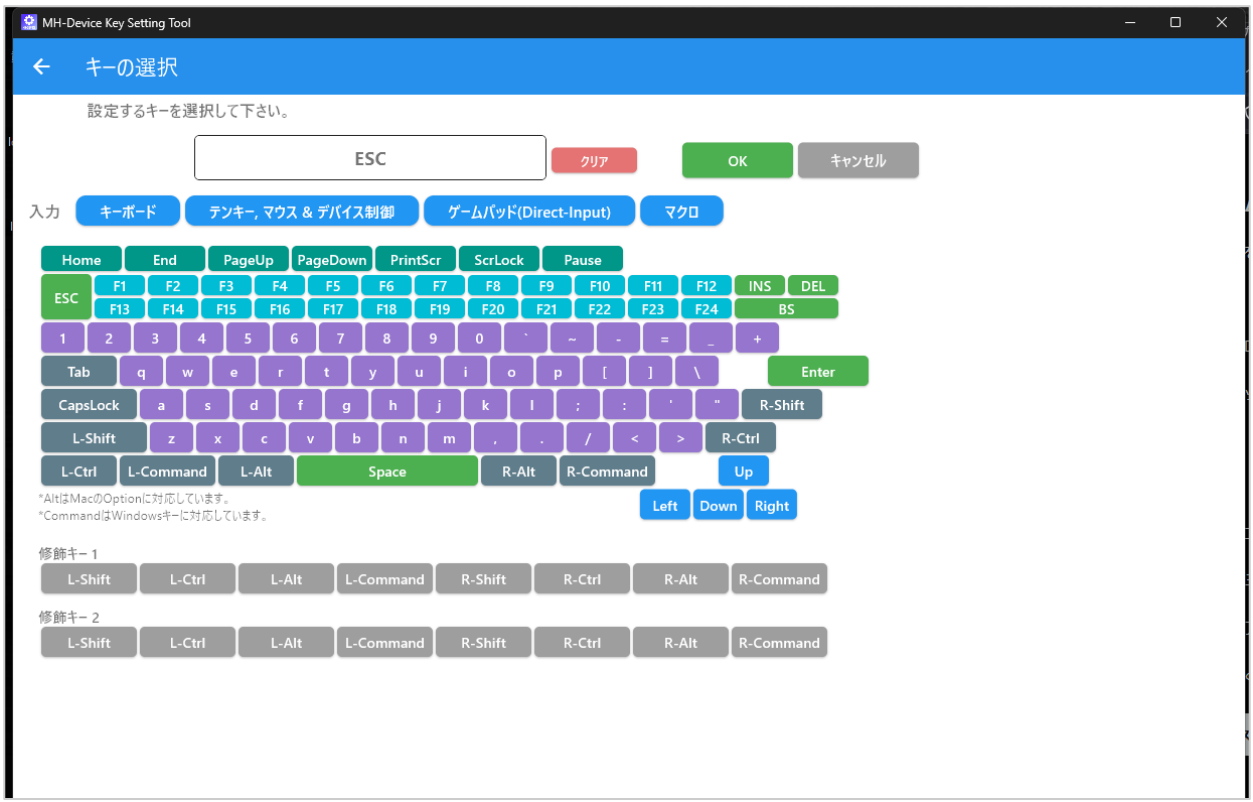
起動画面（表示は製品によって変わります）

ボタン / 項目	できること
Setting	キーの割り当てなど、設定画面を開きます
Control	チャンネルをその場で切り替えます（対応製品のみ）
AutoChannel	起動中のアプリに合わせてチャンネルを自動で切り替えます（対応製品のみ）
Manual	マニュアルを開きます
Language / 言語	日本語 / English を切り替えます
Display Mode	画面の配色を Light / Dark で切り替えます
タスクトレイモード	最小化したときにツールをタスクトレイに常駐させます（Windows のみ）
Deep Seek Mode	製品が一覧に出ないとき ON にして再読み込みすると、接続デバイスを詳細に探します

⚠ **一覧に製品が出ないときは、まず USB ケーブルを挿し直してから右下の再読み込みボタンを押してください。**
それでも出ない場合に「Deep Seek Mode」を ON にします。読み込みに時間がかかるようになります。

キーを割り当てる ①　キーボード

・設定画面で割り当てたいボタンを押すと「キーの選択」画面が開きます。
・上部の4つのタブから、割り当てたい種類を選びます。
・選んだあと OK を押すと本体に書き込まれます。キャンセルすると変更されません。
・「クリア」を押すと、そのボタンの割り当てを空にできます。



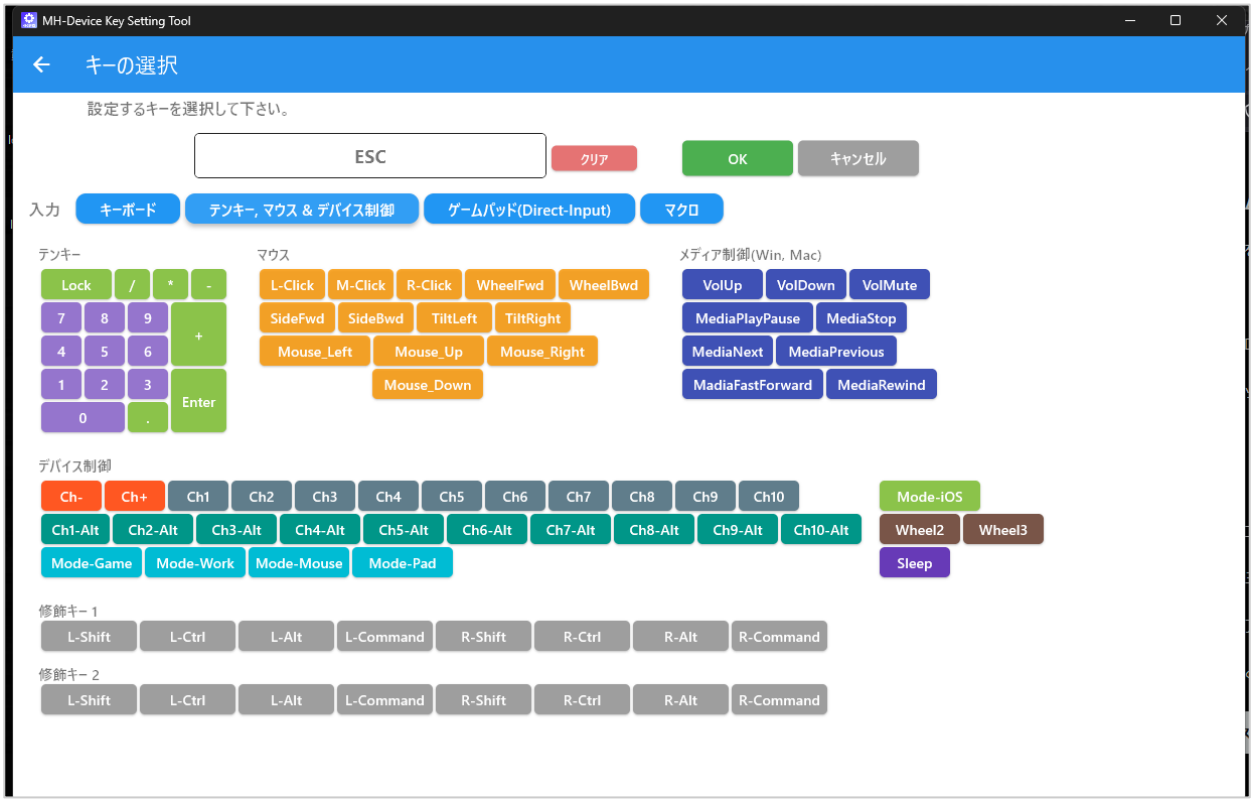
キーの選択 →「キーボード」タブ

修飾キーは2つまで組み合わせられます

・画面下の「修飾キー 1」「修飾キー 2」で、Shift や Ctrl などを最大2つまで一緒に割り当てられます。
・例：メインに s、修飾キー1に L-Ctrl、修飾キー2に L-Shiftを選ぶと Ctrl + Shift + S になります。

> ⚠ **キーボードのボタン表示は、設定画面右上の「キーボードレイアウト」の選択に合わせて変わります。**
> これは表示を合わせるための設定です。本体が送る信号そのものは変わりません。
> PC 側で使っているキーボードの配列（日本語配列なら qwerty-jis）に合わせてください。

キーを割り当てる ②　テンキー・マウス・メディア制御



キーの選択 →「テンキー, マウス & デバイス制御」タブ

グループ	割り当てられるもの
テンキー	0〜9・演算子・Enter・NumLock
マウス	左/中/右クリック、ホイール前後、サイドボタン前後、チルト左右、 カーソル移動（上下左右）
メディア制御	音量アップ / ダウン / ミュート、再生一時停止、停止、次の曲、前の曲、早送り、巻き戻し

⚠ ホイール前後・チルト左右を割り当てた場合、1回押すと1回分だけスクロールします。
押しっぱなしでは連続スクロールしません。連続させたいときはマクロで作ってください。

▶ マウスカーソルの移動速度や、ホイールのスクロール量は「マウス関連の設定」で調整できます。

キーを割り当てる ③　デバイス制御

・本体そのものを操作するキーです。同じ「テンキー, マウス & デバイス制御」タブの下半分にあります。
・PC へは何も送られません。本体の状態が変わります。

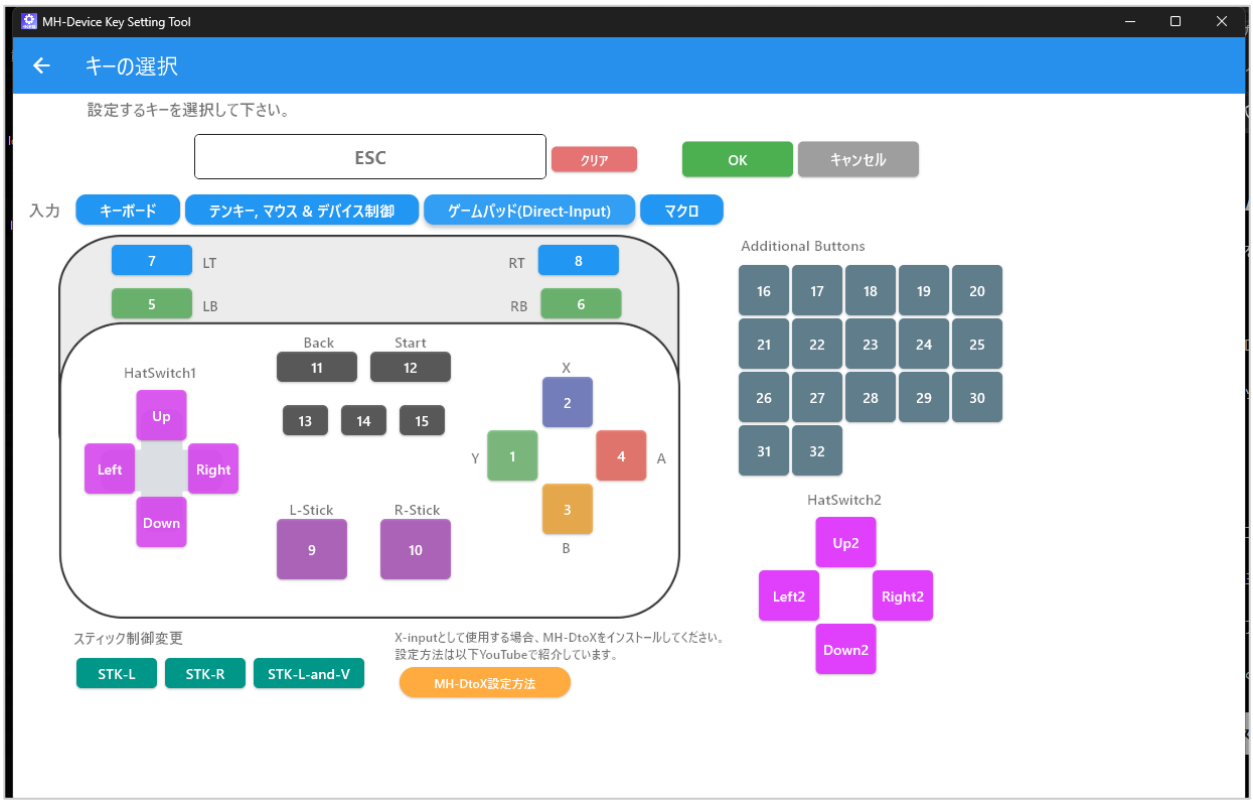
種類	動作
Ch+ / Ch−	チャンネルを1つ進める / 戻す
Ch1、Ch2 …	指定したチャンネルへ切り替える
Ch1-Alt、Ch2-Alt …	押している間だけ指定チャンネルになり、離すと元のチャンネルへ戻る

▶ **ここに並ぶキーは製品によって変わります。チャンネルの数のほか、操作モードの切り替え、**
ホイールの段切り替え、Sleep、ほかの製品の操作など、その製品にある機能のキーだけが出ます。
お使いの製品で何が使えるかは、製品ごとのページをご覧ください。

⚠ **チャンネル切替キーをどこにも割り当てていないと、本体だけではチャンネルを変えられなくなります。**
最低1つはチャンネル操作のキーを残しておくことをおすすめします。

キーを割り当てる ④　ゲームパッド（Direct-Input）

・本体は PC から「ゲームパッド」としても認識されます。ゲームパッド対応のゲームでそのまま使えます。
・ボタン（Pad1～Pad32）とハットスイッチ2組を、本体の好きなキーに割り当てられます。



キーの選択 →「ゲームパッド(Direct-Input)」タブ

▶ アナログスティックを搭載した製品では、スティックをゲームパッドのどの軸として扱うかを選べます。
詳しくは製品ごとのページをご覧ください。

⚠ macOS ではゲームパッド機能はお使いいただけません。
また「その他設定」の MacOS・iOSモードを ON にすると、ゲームパッドとしての動作は止まります。

チャンネルを使い分ける

・チャンネルとは、キー割り当てを丸ごと切り替えるための「設定のセット」です。
・ゲームごと・アプリごとに別のチャンネルを作っておけば、本体のキーを押すだけで切り替えられます。
・切り替えはチャンネル操作キー（C-07）、設定ツールの Control 画面、AutoChannel（C-17）の3通りです。

チャンネルごとに変わるもの	全チャンネルで共通のもの
キーの割り当て（メイン・修飾キー1・2）	マクロの中身
操作モード	その他設定の各項目
LED の色	キーボードレイアウト
各種の感度	本体の調整値（スティックやトラックボールの補正など）

⚠ **マクロは全チャンネル共通です。チャンネルを変えてもマクロの中身は変わりません。**
チャンネルごとに違う動きをさせたいときは、別番号のマクロを作って割り当ててください。

▶ **チャンネルの数と、各チャンネルの LED 初期色は製品によって違います。「仕様一覧」のページをご覧ください。**

マクロ ①　マクロとは

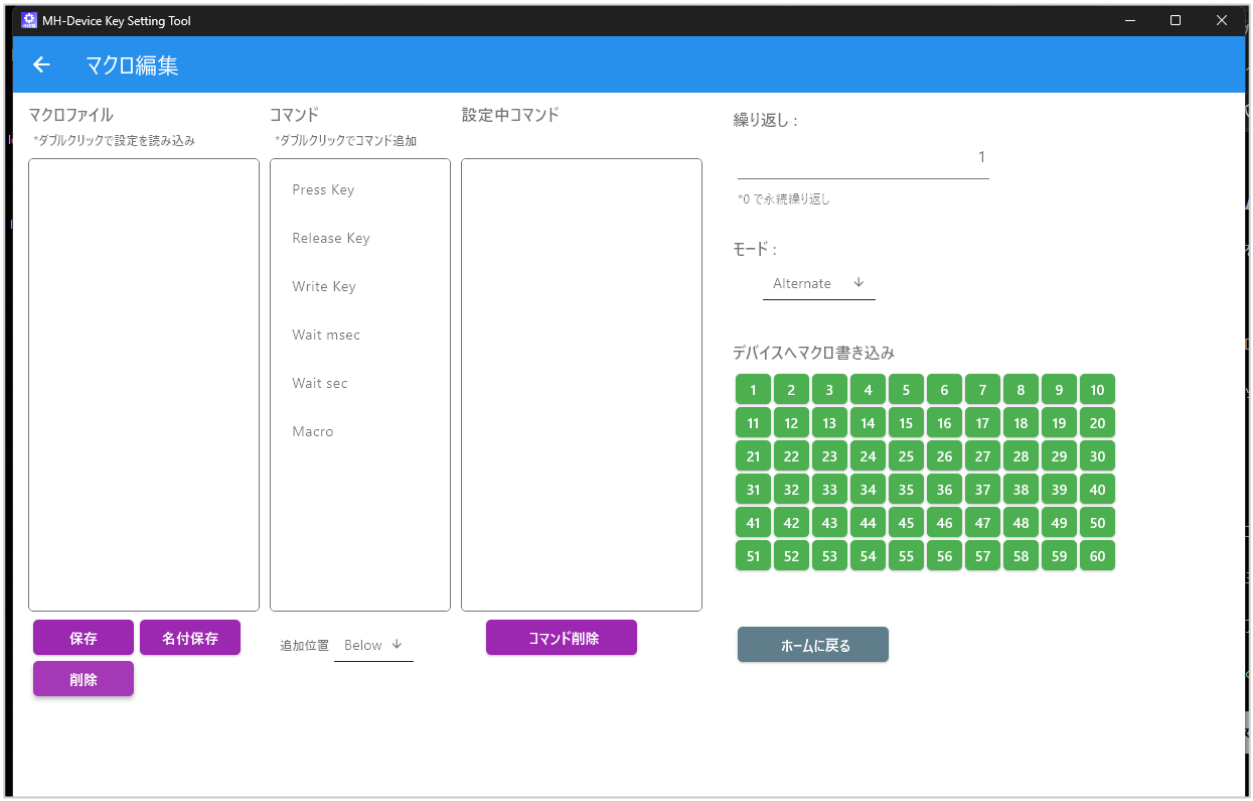
・マクロは「複数の操作をまとめて1つのキーに入れる」機能です。
・キーを押す・離す・待つ、といった命令を順番に並べて作ります。
・作ったマクロは本体に保存され、キーの選択画面の「マクロ」タブから割り当てます。

命令	動作
Press Key	キーを押します（離しません）
Release Key	キーを離します
Write Key	キーを押して、決められた時間だけ待ってから離します
Wait msec	指定したミリ秒だけ待ちます
Wait sec	指定した秒数だけ待ちます
Macro	別のマクロへ移ります

・繰り返し回数を指定できます。0 を指定すると、止めるまでずっと繰り返します。
・同時に実行できるマクロは1つだけです。別のマクロが始まると、実行中のマクロは止まります。
・マクロの実行中に押されたキーは、マクロが終わるときにまとめて離されます。押しっぱなしになりません。

⚠ **「Macro」命令は、別のマクロへ移る命令です。移った先から戻ってはきません。**
そのため Macro 命令より後ろに書いた命令は実行されません。必ず最後に置いてください。

マクロ ②　マクロを作る



設定画面 →「マクロ編集」

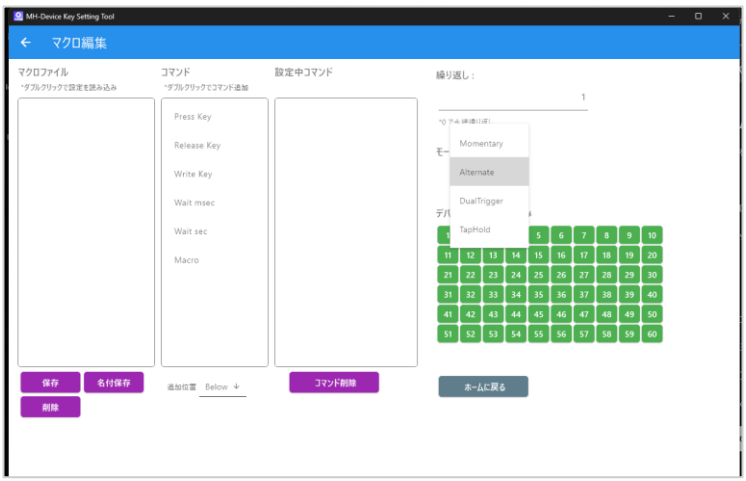
作りかた

・「コマンド」欄の命令をダブルクリックすると、「設定中コマンド」に追加されます。
・「追加位置」で、選んでいる行の上（Above）に入れるか下（Below）に入れるかを選べます。
・不要な行は選んで「コマンド削除」で消します。
・「繰り返し」に回数を入れます。0 で無限に繰り返します。
・「モード」で動作の仕方を選びます（次ページ）。
・最後に「デバイスへマクロ書き込み」の番号ボタンを押すと、その番号に書き込まれます。

▶ **書き込みボタンの番号が、キー割り当てで選ぶ「Macro.1」「Macro.2」…の番号になります。**
書き込むと、同じ内容がツールのフォルダにもファイルとして自動保存されます。
「保存」「名付保存」で任意の名前を付けて残しておくこともできます。

マクロ ③　動作モードを選ぶ

モード	動作	使える命令
Momentary	キーを押している間だけ動きます。離すと止まります	すべての命令
Alternate	1回押すと始まり、もう一度押すと止まります	すべての命令
DualTrigger	押した瞬間と離した瞬間に、それぞれ別のキーを出します	Press Write / Release Write の2つだけ
TapHold	長く押したときと、短く押したときで別のキーを出します	Hold Write / Tap Write の2つだけ
DoubleTap	決められた時間内に2回押したときと、1回だけのときで別のキーを出します	SingleTap Write / DoubleTap Write の2つだけ



モードの選択（図は DoubleTap 追加前のもの）

⚠ **DualTrigger / TapHold / DoubleTap の3つは、命令を2つだけ、決まった順番で並べます。**
繰り返し回数の指定は効きません（常に1回です）。
この3つから別のマクロを呼び出すときは、呼ばれる側を必ず Momentary モードで作ってください。

▶ **TapHold と DoubleTap の「長押し」「2回押し」と判定する時間は「その他設定」で変更できます（「その他設定」）。**

マクロ ④　思ったとおりに動かないとき

症状	原因と対処
書き込もうとするとエラーになる	1つのマクロに入れられる命令は15個までです。16個以上あると書き込めません。 分けて作り、Macro 命令でつないでください
Macro 命令の後ろが実行されない	Macro は「移る」命令で、戻ってきません。最後の行に置いてください
Write Key の押し時間を変えたい	「その他設定」の「マクロ write key のリリース時間」で変更します。 この値は全部のマクロで共通です。マクロごとには設定できません
修飾キーを付けられない	Press Key / Release Key / Write Key には修飾キーを付けられません。 DualTrigger・TapHold・DoubleTap の各命令では付けられます

⚠ **長い待ち時間には Wait sec を使うほうが確実です。**
たとえば「3秒待つ」は、Wait msec で 3000 と書くより Wait sec で 3 と書いてください。

その他設定

・設定画面の右上「その他設定」から開きます。ここの項目はすべて全チャンネル共通です。



その他設定

項目	内容	初期値
MacOS・iOSモード	iPad / iPhone に接続するとき、および macOS でマウス機能を使うときに ON にします。 ゲームパッドとしての動作は止まります。切り替えると本体が自動で再起動します	OFF
マクロ write key の リリース時間	マクロの Write Key で、押してから離すまでの時間	50 ms
マクロ TapHold の 判別時間	この時間より長く押すと「長押し」と判定します	200 ms
マクロ DoubleTap の 判別時間	この時間内にもう一度押すと「2回押し」と判定します	200 ms

▶ 上記のほかに、その製品だけの項目が表示されることがあります。製品ごとのページをご覧ください。
お使いの製品にない機能は表示されません。
これらの設定は「プリセット」には保存されません。

マウス関連の設定



設定画面 →「マウス関連設定」

グループ	項目	何に効くか
マウスキー	速度 / 加速度 / 最大速度	Mouse_Up などのキーでカーソルを動かすときの速さ
ホイール速度	スクロール量 / チルト量	WheelFwd などのキー1回あたりのスクロール量

▶ アナログスティックやトラックボールを搭載した製品では、ここにその製品専用の設定も表示されます。
内容は製品ごとのページをご覧ください。
「OS のマウス設定」ボタンを押すと、Windows 側のマウス設定画面が開きます。
本体側を上げても速くならないときは、OS 側のポインター速度もあわせて確認してください。

AutoChannel（チャンネルの自動切替）

・起動中のアプリケーションに合わせて、チャンネルを自動で切り替える機能です。
・起動画面の「AutoChannel」から設定します。



AutoChannel 設定画面

設定の手順

・左の一覧から、チャンネルを切り替えたいアプリケーションを選んで登録します。
・登録したアプリごとに、切り替え先のチャンネルを選びます。
・「自動チャンネル変更を有効にする」にチェックを入れると動きはじめます。
・ゴミ箱アイコンで登録を削除できます。

項目	意味
Default	登録したどのアプリも前面にないときのチャンネル。この行は削除できません
NC	チャンネルを切り替えない、という指定です

⚠ この機能は設定ツールが動いている間だけ働きます。ツールを終了すると切り替わりません。
起動画面の「タスクトレイモード」を ON にして常駐させておくことをおすすめします（Windows のみ）。

プリセット（設定の保存と読み込み）

・いまの設定を PC 側にファイルとして残しておく機能です。設定画面の左下にあります。

ボタン	動作
保存	選んでいるファイルに上書きします
名付保存	名前を付けて新しく保存します
削除	選んでいるファイルを消します
（ダブルクリック）	一覧のファイルをダブルクリックすると、その設定が本体へ書き込まれます

保存されるもの	保存されないもの
いま選んでいるチャンネル 1つ分のキー割り当て	ほかのチャンネルの設定
（修飾キー1・2を含む）	マクロの中身
操作モード・LED 色・各種の感度	その他設定の各項目
	キーボードレイアウト
	本体の調整値（スティックやトラックボールの補正など）

⚠ **プリセットに保存されるのは「いま開いているチャンネル1つ分」だけです。**
全チャンネルをまとめて保存することはできません。チャンネルごとに保存してください。
また、プリセットを読み込んでも、マクロの内容やその他設定は元に戻りません。

▶ **プリセットには製品名が記録されています。別の機種のプリセットを読み込もうとすると拒否されます。**

ファームウェア更新

手順

・本体のソフトウェア（ファームウェア）を新しくする機能です。設定画面の「ファームウェア更新」から開きます。
・画面を開くと、最新版があるかどうかを自動で確認し、必要なファイルをダウンロードします。
・「更新が必要です」と表示されたら、画面の指示に従って更新してください。
・更新が終わったら、起動画面に戻って再読み込みボタンを押してください。

⚠ **更新中は USB ケーブルを抜かないでください。本体が起動しなくなることがあります。**

▶ **更新したのにバージョンが変わらないときは、USB ドライバのインストールが必要な場合があります。**
画面に表示されるドライバインストールの案内リンクから手順をご確認ください。

▶ **新しい機能は、ファームウェアと設定ツールの両方が対応してはじめて使えるようになります。**
設定ツールに項目が見当たらないときは、設定ツール自体が最新かどうかもご確認ください。
設定ツールは起動画面の「ツールダウンロード」から入手できます。

困ったときは

症状	確認していただきたいこと
設定ツールに製品が表示されない	・USB ケーブルを挿し直し、右下の再読み込みボタンを押す ・別の USB ポートに挿し替える（ハブ経由ではなく PC 本体へ） ・起動画面の「Deep Seek Mode」を ON にして再読み込みする ・設定ツールを二重に起動していないか確認する
キーを割り当てたのに反応しない	・いま選んでいるチャンネルに割り当てたか確認する（別チャンネルかもしれません） ・操作モードのある製品では、モードによって動作が変わります
文字が思ったものと違う	・設定画面右上のキーボードレイアウトを、PC 側の配列に合わせる
ゲームパッドとして認識されない	・「その他設定」の MacOS・iOSモードが ON になっていないか確認する ・macOS ではゲームパッド機能は使えません
設定が勝手に変わる	・AutoChannel が有効になっていないか確認する（C-17）
LED が消えている	・そのチャンネルの LED 設定が OFF になっていないか確認する ・Sleep のある製品では、Sleep になっていないか確認する（もう一度押すと戻ります）

▶ **上記で解決しないときは、お問い合わせ時に「製品名」「ファームウェアのバージョン」**
「設定ツールのバージョン」をお知らせください。いずれも起動画面で確認できます。

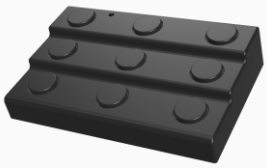
付録　用語集

用語	意味
チャンネル	キー割り当てをまとめて切り替えるための設定のセット
ファンクション	本体側の「割り当て先」。設定画面に並んでいるボタン1つ1つのこと
修飾キー（コンビネーションキー）	Shift や Ctrl のように、ほかのキーと組み合わせて使うキー
操作モード	スティックやトラックボールの振る舞いを切り替える設定。名称と種類は製品によって異なる
Momentary	押している間だけ動くこと
Alternate	押すたびに開始と停止が入れ替わること
DualTrigger	押した瞬間と離した瞬間で別の動作をさせるマクロのモード
TapHold	長押しと短押しで別の動作をさせるマクロのモード
DoubleTap	2回押しと1回押しで別の動作をさせるマクロのモード
プリセット	設定を PC 側にファイルとして保存したもの
ファームウェア	本体の中で動いているソフトウェア
Direct-Input	PC がゲームパッドを認識する方式の1つ
Std / Flip	左右の別。製品により RH / LH と表記する。左右対称で区別の無い製品もある

BetaHub — ほかの MH-Device 製品を足で操作する

MH-Beta2 だけの機能です

・PC 用アプリ BetaHub を使うと、MH-Beta2 の足操作で ほかの MH-Device 製品を操作できます。
・対応する製品は MH-Zeta と MH-Epsilon2 です。
・両手をキーボードとマウスから離さずに、別のデバイスの設定を切り替えられます。



MH-Beta2
足でスイッチを踏む

USB →

BetaHub

PC 用アプリ
受け取って変換する

USB →





MH-Zeta / MH-Epsilon2
設定が切り替わる

踏んだスイッチが、PC の BetaHub を通じて相手の製品への操作に変わります。

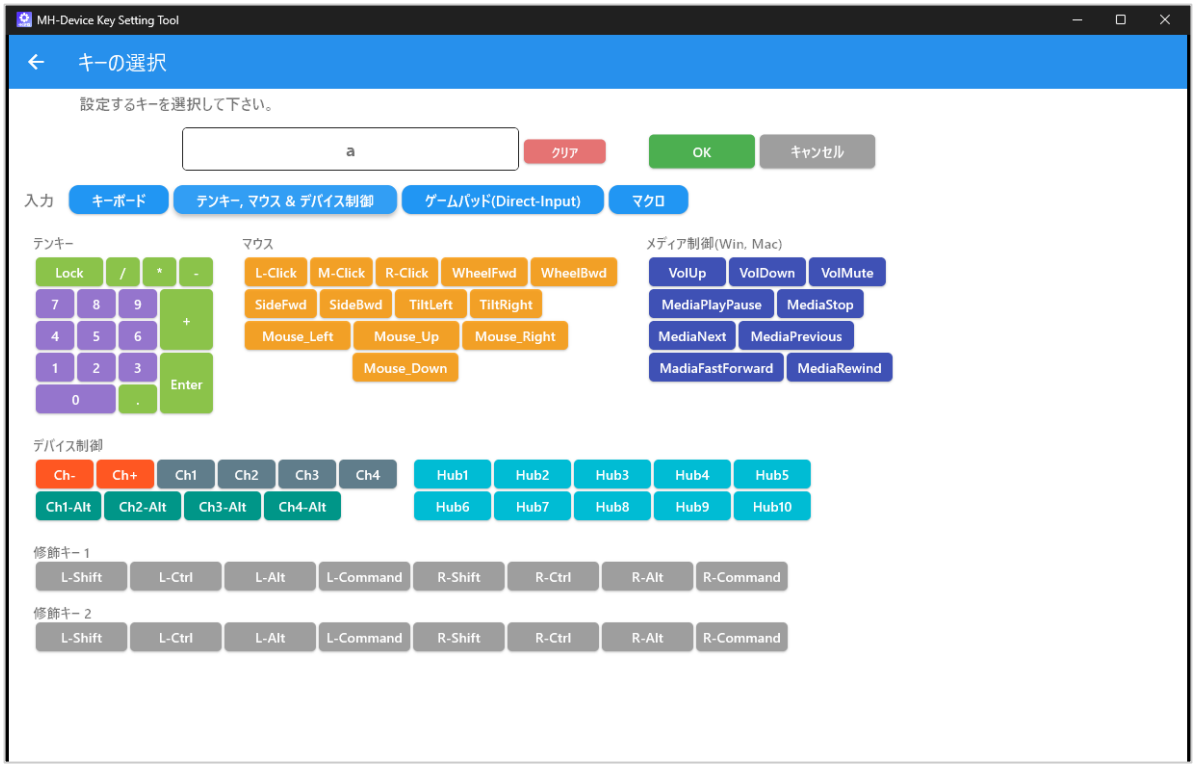
項目	内容
割り当てるキー	Hub1 ～ Hub10（キーの選択画面の「テンキー, マウス & デバイス制御」タブ）
工場出荷時	Hub は割り当てられていません（スイッチ 1 ～ 9 に数字の 1 ～ 9 が入っています）。 お使いになる前に、設定ツールで割り当ててください
送信先	2台まで指定できます。MH-Zeta と MH-Epsilon2 を同時に使うこともできます
MH-Zeta へ送れる操作	チャンネル（Ch1～Ch10・Alt付き）／操作モード／ホイールの段／ スティックの割り当て／Sleep
MH-Epsilon2 へ送れる操作	チャンネル（Ch1～Ch10・Alt付き）／トラックボールのモード（Alt付き）／ ホイールの段／Sleep
入手先	公式サイトの「ダウンロード」から（Windows / macOS）

▶ **「Alt付き」は、踏んでいる間だけその状態になり、足を離すと元へ戻る動作です。**
たとえば MH-Epsilon2 で「踏んでいる間だけスクロールモード」といった使い方ができます。

⚠ **BetaHub を起動していないときは、Hub キーを踏んでも相手の製品は反応しません。**
Hub キーを使わない場合は、ほかのキーやマクロを割り当ててお使いください。

本機で使えるデバイス制御キー

キーの選択画面「テンキー, マウス & デバイス制御」タブの下半分に並びます



MH-Beta2 のデバイス制御

キー	動作
Ch+ / Ch−	チャンネルを1つ進める / 戻す
Ch1 ～ Ch4	指定したチャンネルへ切り替える
Ch1-Alt ～ Ch4-Alt	踏んでいる間だけ指定チャンネルになり、離すと元のチャンネルへ戻る （切り替え先のチャンネルに戻りの設定が必要。下の注意を参照）
Hub1 ～ Hub10	BetaHub を通じて ほかの MH-Device 製品を操作する

⚠ **Ch-Alt を使うときは、切り替え先のチャンネルの同じスイッチに、戻り先の Ch-Alt を設定してください。**
例：Ch1 のスイッチ1に Ch3-Alt を設定したら、Ch3 のスイッチ1に Ch1-Alt を設定します。
この設定がないと、足を離しても元のチャンネルへ戻りません。

▶ **本機には操作モード・ホイール・Sleep がないため、Mode-***・Wheel2 / Wheel3・Sleep は表示されません。**

⚠ **チャンネル切替キーをどこにも割り当てていないと、本体だけではチャンネルを変えられなくなります。**
最低1つはチャンネル操作のキーを残しておくことをおすすめします。

LED

・本体上面に LED が1灯あります。いまどのチャンネルかを色で示します。
・チャンネルごとに色を設定できるので、足元を見れば設定が切り替わったことを確認できます。
・設定画面の「LED色」の3本のスライダーで、赤・緑・青をそれぞれ 0 ～ 127 で調整します。



設定画面の中央上で LED 色を設定します

・画面に表示される色は、実際の見えかたに近づけて補正した色です。
・LED を消したいチャンネルは、LED の設定を OFF にしてください。

▶ 足元に置いて使う製品のため、チャンネルごとに見分けやすい色を設定しておくと便利です。

困ったときは（MH-Beta2 固有）

設定ツール全般のトラブルは「困ったときは」のページをご覧ください

症状	確認していただきたいこと
踏んでも反応しない	・しっかり踏み込んでください。足での誤入力を防ぐため、押下力の高いスイッチを使っています ・いま選んでいるチャンネルに割り当てたか確認してください（別チャンネルかもしれません）
Hub を割り当てたスイッチを踏んでも何も起こらない	・PC 側に BetaHub がインストールされ、起動しているか確認してください ・Hub キーが不要な場合は、別のキーやマクロに割り当て直してください
設定ツールに「モード」が見当たらない	・本機に操作モードはありません。仕様です
「スティック調整」が見当たらない	・本機にアナログスティックはありません。仕様です
操作中に本体が動いてしまう	・滑りやすい床では、マットなどを敷いて滑り止めをしてください
LED が消えている	・そのチャンネルの LED 設定が OFF になっていないか確認してください

▶ **お問い合わせ： mh.device.info@gmail.com**
製品名・ファームウェアのバージョン・設定ツールのバージョンをあわせてお知らせください。